

## 「ミャンマー超小型衛星 1 号機の国際宇宙ステーションからの放出」に関する当社の見解

本日、日本時間 3 月 22 日（月）17:30 に国際宇宙ステーションより宇宙空間に放出されたミャンマー超小型衛星 1 号機（以下“本衛星”）に関し、昨今のミャンマー連邦共和国を取り巻く社会情勢に鑑み、本衛星の平和利用に関するご懸念を想定し、以下に当社の見解をお示し致します。

### 1. 当社の基本方針

国際宇宙ステーションが国際協力のもと運営されているプログラムであることを踏まえ、お客様の超小型衛星の開発・打上げ・運用の目的が、その趣旨に沿い、「公序良俗に反すること」「平和主義の理念に反すること」「もっぱら政治又は宗教活動を目的とすること」「条約、法律、法律に基づく命令、条例、規則その他制限に違反する行為を行うこと」に該当しない内容であることを条件に、国際宇宙ステーションを利用した超小型衛星打上げサービスを提供しております。

### 2. ミャンマー超小型衛星 1 号機に関する当社の見解

- 本衛星は、北海道大学が、ミャンマー航空宇宙技術大学との契約に基づき日本国内で開発した質量 50kg の超小型衛星です。当社は、北海道大学との契約に基づきサービス提供を行いました。
- 本衛星は、農業・環境計測を目的とする特殊なカメラを搭載した衛星であり、可視光画像（つまり一般的な航空写真のような画像）の地上解像度においては、現在誰もが安価に入手できる画像と同等かそれ以下です。また、同じ箇所で取得できる画像の頻度についても軌道特性上、2-3 日に一度、条件が悪い時は数週間に一度と不定期、且つ夜間は画像認識ができません。従い、軍事利用目的では価値がないと判断できる性質です。
- また、ミャンマー国内には本衛星とデータの送受信を行う地上設備がなく、運用及びデータ取得が可能なのは日本国内の北海道大学関連施設のみです。つまり、北海道大学からの提供がなければ本衛星データを取得することは不可能です。
- 万全を期すために北海道大学とは、本衛星データに関するミャンマー側からの引き渡し要請があった際は、ミャンマーを取り巻く国内外の政治・社会情勢が安定し、国連をはじめ広く国際社会が納得する形で平和利用が担保されない限り、行わないこと、また、大学として厳格な管理を行うことを確認しております。詳しくは、公開されております同大学宇宙ミッションセンターの声明文に記されております。

ご不明点等がございましたらご遠慮なく [reply@space-bd.com](mailto:reply@space-bd.com) までお問い合わせくださいませ。

皆様のご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

Space BD 株式会社

代表取締役社長 永崎 将利